



野長瀬会長インタビュー

支援対象や地域を広げて ビジネス機会創出を後押し

首都圏産業活性化協会(TAMA協会)は、2023年度を最終年度とする第6期中期計画が残すところ3カ月となり、次期中期経営計画に向けた準備を進めています。日本経済は資源・エネルギー価格の上昇や、国際競争による地政学リスクなどに直面しています。こうした中でTAMA協会は、24年にどのような取り組みをしていくのかについて、野長瀬裕二会長に話を聞きました。

研究開発補助金 存在感が高まる

——24年の世界経済と国内景気について、見通しを聞かせてください。

世界的にはやはり、米国が政策金利を上げすぎた副作用が少しずつ出ており、消費が落ち込み主要産業に減速感が出てくると見えています。そうしますと、米連邦準備理事会(FRB)がこのまま金利を上げていく路線を維持し、もしも景気が減速するようなことになると、米大統領選挙に影響しかねません。

したがって、米国の景気に減速感が出てくるようであれば、金利上昇が一服する可能性が高いと思っている人が、金融関係者には多いのではないのでしょうか。実際に米国と取引のある企業と話をしていると、米国では少し投資意欲が減退しているという声も聞かれます。

日本の株式市場を見ていると、ボラティリティ(相場の変動性)が非常に高くなっており、こうしたボラティリティが高い状態は、24年の前半くらいまでは続くのではないのでしょうか。

——コロナ禍を経て、中小企業が置かれている状況の変化をどのように感じられていますか。

協会の会員企業は、自社商品を持っている研究開発型の中小企業が多く、おそらくこの先1年ほどは政府系のベンチャーファンドといった投資資金よりも、研究開発に関する補助金のような支援の存在感が高まっていくと、私は見えています。その意味では、協会がこうした補助金などの獲得を支援することは企業のため、産業界のためになるのではないかと考えています。

その一方で、すでに上場企業は外資の株式保有比率が高まっていますが、中堅・中小企業においても、M&A(合併・買収)などによって、外資系の傘下に入る企業が

徐々に増えていくことが予想されます。そうしますと、中長期的には中小企業といえども、賃金水準を徐々にグローバルスタンダードに合わせざるを得ないというフェーズ(段階)が、どこかで来るというのが私の見立てです。

都道府県越え 活動する強み

——こうした中でTAMA協会の強みや、今後求められる役割については？

協会は私が会長に就いた18年以降、芳賀事務局長の尽力や事務局の皆さんによる頑張りのもあり、会員数も徐々に増えています。このことから分かるように、技術開発や研究開発を進める中堅・中小企業を育てる組織としては、日本全国を見渡しても、かなりレアな組織に変わりつつあると言える訳です。

協会が責任感を持ちながら、地方自治体や各地域の支援機関と連携し、必ずしも公的な支援が行き渡らない部分について、各支援機関などに連携を呼びかけるポジションを取っていければ良いと感じています。さらに当協会は都道府県を越えて活動できることも強みです。

——さまざまな産業支援機関と競合する訳ではなく、お互い補完関係にあるということですね。

その通りです。例えば東京都、神奈川県、埼玉県なども組むことができるため、「内閣府の予算と一緒に取りにいきましょう」となったときに、私どもが接着剤になって、広域な連携スキーム(枠組み)を描くことができます。ここは私たちの特徴であり、責務ではないかと思っています。

——23年度を最終年度とする第6期中期計画の手応えについてはいかがですか。

私が会長に就いたときに言ったのが、や

はり支援サービスというものはスタッフの人数に依存するという事です。まだ十分な人数をそろえていないと思いますが、これまでに周りの自治体や金融機関からも出向などご協力頂き、スタッフの数は増えています。

地域的な広がりとしては、これまで東京23区をのぞいた多摩地域と神奈川県、埼玉県を含む広域に基盤を有してきましたが、このほど北関東の企業経営者の方にも理事に就任してもらうこととなり、北関東の産業クラスター組織とも連携を密にしていきたいと考えています。

グローバルな支援について、協会は海外に拠点を持っていませんが、会員の中で、海外に事業基盤を構築している企業については把握しています。その企業の方々と当会が組んで、何か企画をしていくことはできます。例えば、海外企業との連携などが考えられます。

付加価値創造 協会でお伝え

——24年以降の取り組みについては、どう考えていますか。

私どもは、カーボンニュートラルなど新しい技術の支援をしていますが、それらに加えて、今まで支援対象ではなかったベンチャー企業を育てるような機能も考えていけないといけません。そういった支援の輪を広げていくには、外部パートナーのような人材と組んで、支援機能の強化を図ってきたいと考えています。

これまでは産業支援と言えば、どうしても製造業系が多くなっていったと思います。ところが日本製のパソコンなどを見ても分かるように、ラベルこそ日本企業であるものの、中身はインテルやサムスン、組み立ては台湾といったように、大手製造業はサービス業に近いとも言えます。

これとは逆に、例えば外食産業で伸び



昨年の通常総会の様子

ているような会社は少なからず、セントラルキッチンがあり、要するに工場を持っている訳です。ラーメン店のチェーンも、麺は工場生産してたりします。これまでの一次産業、二次産業、三次産業というような分類は現状にそぐわなくなってきたのです。このように、ものづくりのプロセス全体を通じて、付加価値を創造するお手伝いをするのが、協会の支援対象になっていくと思います。

協会として、イノベーションの出発点として製品開発がある、という軸は変わりません。ただ、ある企業がバリューチェーンのどこかで製品開発やものづくりに関わっていれば、たとえサービス業であっても、支援対象になるのではないのでしょうか。

【略歴】

のながせ・ゆうじ

東京大学農学部農業工学科(現、生物・環境工学専修)卒業。早稲田大学大学院理工学研究科工業経営学専攻(現、経営デザイン専攻)修了。早稲田大学大学院アジア太平洋研究科国際経営学専攻(現、商学研究科)修了、博士(学術)。製造業の生産技術・生産管理・事業管理・事業企画等の実務を経て、リストラを機に大学に転ずる。IE、設計VE、子会社経営管理、原価企画、商品企画、新事業企画等の実務経験が、研究の基礎。地域ベンチャー企業のビジネスモデル研究、経営システム研究、地域イノベーション研究に注力している。



イノベーション創出をサポート

芳賀啓一理事・事務局長に聞く

首都圏産業活性化協会(TAMA協会)は、活動地域を広げ支援対象にサービスを加えるなど、活動の輪を広げています。そこで、芳賀啓一理事・事務局長に、現行の第6期中期計画の振り返りや、第7期の見通しなどについて話を聞きました。



—2024年に入ってから目玉となりそうな事業は。

協会は中小企業庁「令和5年度 中小企業のイノベーション創出を支援するイノベーション・プロデューサー」受託事業の採択を受けました。

協会ではLayer1「交流」、Layer2「連携」、Layer3「創造」という3つの層に分け、イノベーションの創出支援を行っており、それぞれの層で支援を強化します。1月12日(金)に、東京たま未来メッセにおいてフードサプライチェーンをテーマにコンセプト展示も予定しています。

—そのほかに重点的に取り組まれないことはありますか。

私が着任した2019年以降は、協会の事務所を構える八王子、羽村をはじめとするJR中央線・青梅線沿線に比べ、JR横浜線

沿線の特に南部へは十分手が届いていないところがありました。昨年、横浜線沿線にゆかりのある職員も新規採用しましたので、横浜・川崎方面のフォローも厚くしていきたいです。

—協会の役割として、これまでと変わらないところと、新たに取り組むべきことは何でしょうか。

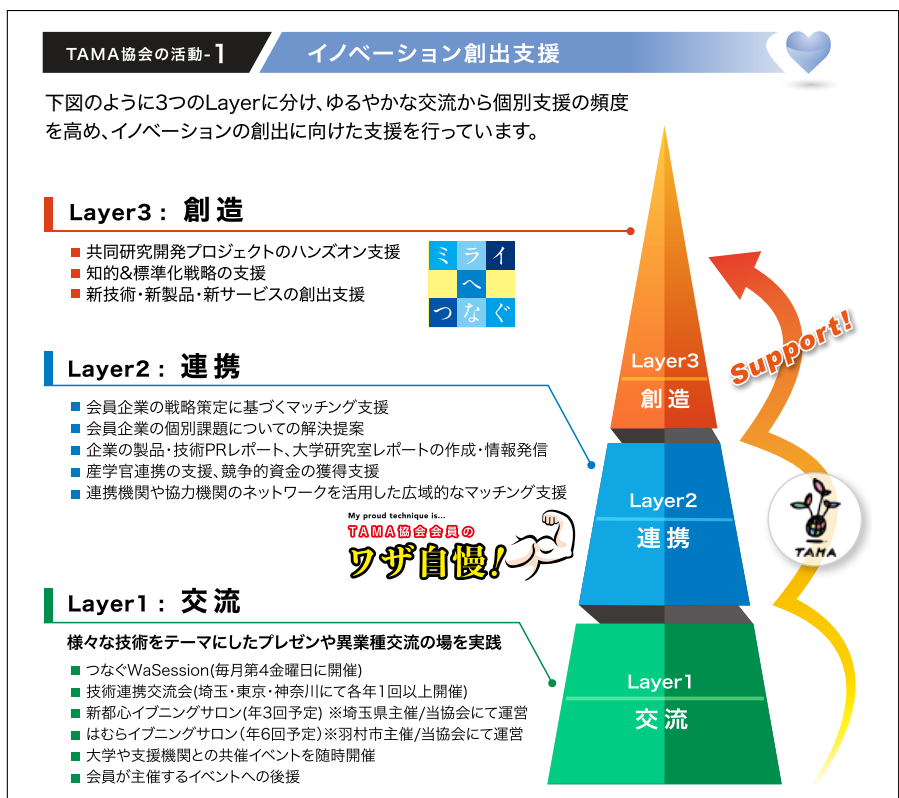
これまでと変わらないところとしては、共同研究開発、オープンイノベーションによる新事業・新製品開発を目指した連携促進などがあります。補助金の申請支援についても続けていきますが、現在、全国にいたる所に認定支援機関ができており、相対的に協会の比重は小さくなっています。

現行の第6期中期計画では、基本の立ち返りをして、連携する地域を「埼玉・東京・神奈川および周辺地域」に広げました。周辺地域というのは、具体的には山梨県や群馬県を指します。山梨とは医療機器分野で連携しています。群馬については、高崎市にある企業の社長が協会の理事に就任し、群馬県庁も協会の新規会員になりました。さらに支援の対象について、これまでの製品のみならず、サービスを加えました。

従来の技術先進首都圏(TAMA)エリアの求心力を高めつつ、周辺地域にネットワークを広げていこうということです。



交流会の様子



—協会による会員へのサポートも、拡充が求められると思います。

まずは経営者のお困りごとについて、協会の職員が深く知っていくことが大切だと考えます。そのためには職員一人ひとりが、地道に経験を積んでいくことが必要ではないでしょうか。経営者とお話をするなかで、潜在ニーズの顕在化を図っていくということです。

職員に対しては苦手なことを克服するよ

りも、自分のやりたいことをより深めていく方が良いと伝えています。ただ、私の経験上、意外と他人がやりたがらないような仕事にこそ、ビジネスチャンスが眠っていると思っています。面倒な仕事でもいざ引き受けてみると、自分の身になることはあるものです。いずれにしても、野長瀬会長からは、チームワークを大切にしようと言われており、メンバーにはお互いカバーし合いながら仕事をしてもらいたいです。



経営デザインシートで自社のベ

首都圏産業活性化協会(TAMA協会)では、内閣府知的財産戦略推進事務局が推奨する思考補助・デザインツール「経営デザインシート」を活用し、地域中小企業様の知財戦略をサポートしている。協会会員企業のかながわ経済新聞(相模原市中央区)はこのほど、協会が実施している経営デザインシート集合型研修とワークショップに参加。自社の将来向かうべき方向性が明確になったと言う。今回は、神奈川県から「神奈川がんばる企業エース2023」に選ばれた、かながわ経済新聞による経営デザインシートへの取り組みを紹介する。

TAMA協会の集合型研修に2名が参加

かながわ経済新聞は、集合型研修・ワークショップに参加した企業からの勧めもあり、千葉龍太社長が1回目の研修に参加した。同社は新

聞発行事業を柱とつつ、県内経済団体や企業の発行する各種制作物の制作受託や台湾とのビジネスマッチングなども手がけており、今後の成長に向けた事業の棚卸しの必要性も感じていた。こうした中で、経営デザインシートに取り組むことにより、「当社としての全体像を経営デザインシートにまとめることによって、創業者としての私自身の思いと会社の進むべきベクトルを合わせることができた」と説明する。次に、「台湾事業やコーディネート事業などを担当する道添元美専務にも、研修・ワークショップにも参加してもらった」。

協会の研修・ワークショップでは、社長だけでなく経営幹部、あるいは事業部門の責任者といったように複数人が参加している例も珍しくない。経営デザインシートは「事業が一つの企業用」「全社用」「事業用」「簡易版」の4フォー

実施報告

Layer1:交流

第45回つなぐWaSession

12月15日に「デジタルソリューションでここまで変わる!付加価値向上!と銘打ち、デジタル分野で先陣を切っている方々に登壇をお願いしました。Session終了後は懇親会も行われ、ご登壇者をはじめとする「ソフト」分野の会員の皆様と、製造業など「ハード」分野の会員の方々との交流の場となりました。



第38回はむらイブニングサロン

12月12日に第38回はむらイブニングサロン「組織のDXリテラシーを引き上げる」が開催されました。今回は、市内の中小製造業でデジタル化を進められたTISSの荒井様より事例をご紹介頂くとともに、株式会社オンギガンツの森田様より「DX推進における土台となるデジタル人材の育成」についてお話し頂きました。



第1回首都圏産業活性化協会ゴルフコンペ

11月28日に「第1回首都圏産業活性化協会ゴルフコンペ」が、飯能グリーンカントリークラブ(埼玉県飯能市)で行われました。当日は晴天のもと、6組24名による白熱したプレーが繰り広げられました。



今後の予定

(予定は変更になる可能性があります。詳細はホームページをご確認ください)



Layer1:交流

TAMA技術連携交流会@八王子

日時:2024年1月12日(金) 11:00~15:00 場所:東京たま未来メッセ 1F 展示ホールA

令和6年新春講演会・賀詞交歓会

日時:2024年1月12日(金) 16:00~20:00 場所:八王子エルシー

技術経営大学 新事業創出・オープンイノベーションにも役立つ経営デザインシートで、あなたの夢、自社の将来ビジョンを見える化! (R5・下半期編) ~集合型研修&ワークショップ【第2回】~

日時:2024年1月17日(水) 14:00~18:00 場所:東京たま未来メッセ3F会議室

第46回つなぐWaセッション

日時:2024年2月16日(金) 予定

トピックス

令和5年秋の叙勲 受章コメント

2023年11月3日、「令和5年秋の叙勲」において、(株)常光会長の服部健彦様、(株)industria最高顧問の高橋喜一様がそれぞれ、中小企業300社叙勲により旭日単光章を受章されました。

(株)常光会長 服部健彦様

このたびは図らずも、旭日単光章を賜りましたことを心より感謝申し上げます。

私は、創業76年目の研究開発型企業の2代目経営者として各種血液分析装置や遺伝子診断検査薬の開発を通して、社員とともに技術革新に努めてまいりました。2018年には経済産業省より「地域未来牽引企業」の認定もいただきました。この叙勲は私個人のものではなく、長年にわたり私を支えてくださった家族、社員、取引先、そして関係者の皆様のご尽力の賜物と感じております。

この榮譽に恥じないよう、今後も社会に貢献できる企業を目指し、更なる挑戦を続けてまいりたいと思います。最後になりましたが、この叙勲を授与してくださった天皇陛下、内閣総理大臣、経済産業大臣、そして推薦してくださった皆様に、改めて厚く御礼申し上げます。



(株)industria最高顧問 高橋喜一様

このたびの榮譽を受け賜りましたこと、身に余る光栄に存じます。お客様をはじめ、多くの皆様方に感謝申し上げます。

弊社の主力製品であるエレメントレスフィルタ「FILSTAR」(フィルスター)は、自社製品をつくりたいという思いから生まれました。その開発の背景には、40歳を過ぎて独立し、自社製品の開発に注力した歴史がございます。新技術を追求めることは、私のロマンであります。そうした思いで開発したFILSTARは、今や、自動車や工作機械など多種多様な業界のお客様からお声をかけていただく製品となりました。今後も、技術革新を続けて、海外に負けない日本の技術を再構築していく所存です。さらに、いかにして人を育成していくかに力を尽くして参ります。



株式会社システムクラフト

[第3回 INNOVATION PARTNERSHIP AWARD] (都産技研表彰)を受賞

システムクラフトは、東京都立産業技術研究センターの技術支援・研究開発を通して、社会的貢献度の高い事業、製品・技術開発に意欲的に取り組み、都内産業を牽引している中小企業を表彰する都産技研表彰を受賞しました。

株式会社MAZIN

MCPC Award 2023サービス&ソリューション部門で特別賞を受賞

MAZINは、モバイルコンピューティング推進コンソーシアム主催の「MCPC Award 2023」において、サービス&ソリューション部門で特別賞を受賞しました。同アワードは、モバイル、IoT/AI、ロボット技術を積極的に活用し、新たな価値を創出する企業や組織を表彰するイベントです。

株式会社NISSYO

令和5年度 東京都中小企業技能人材育成大賞都知事賞 大賞を受賞

NISSYOは、東京都が中小企業における技能者の人材育成と処遇・地位向上による、産業活性化と競争力のあるものづくり産業およびサービス産業を築くことを目的に実施する「東京都中小企業技能人材育成大知事賞」で、大賞を受賞しました。

武州工業株式会社

[ITConference 2023]最優秀賞(経済産業省商務情報政策局長賞)を受賞

武州工業は、ITCカンファレンスで、優れたパートナーシップにより日本の中小企業の範となDX推進体制を構築した経営者とITコーディネータをともに表彰するDX認定部門表彰において、最優秀賞(経済産業省商務情報政策局長賞)を受賞しました。同カンファレンスは、ITコーディネータ協会(ITCA)が主催しています。

クトルが定まる

マットがある。会社の事業形態や規模などに応じて受講できるのも特徴だ。

生い立ちから自己分析

道添専務は「ワークショップでは自分の生い立ちから家族構成、幼少期に両親から受けた教え、中学生の頃に好きだった学習科目やその利用などについて、事細かに自己分析しました」と振り返る。その上で会社については「一度社長が経営デザインシートで会社全体の棚卸しをして、経営の「見える化」ができていたため、事業用のシートを書く際には、自分自身のミッションを理解した上で取り組むことができた」という。

中小企業は大手企業と比べ、事業部門や機能を多く持っているところは少ない。経営デザインシートに中小企業が取り組むメリットについては、「自社がこういう価値を提供する会社になり

たいという理想像を描くのと同時に、自社のリソースと経営課題・リスクなどについて、整理することができる」と説く。

短期間で自社のビジネス展開の発想を磨く

協会はこれまでに、延べ80社に対し経営デザインシートの作成支援を行ってきた。これまで中小企業を支援してきた経験を活かし、「経営デザインシート」を短時間に、皆で議論しながらビジネス展開の発想を磨ける、集合型研修による支援メニューを用意している。

また、協会は参加者からの質問などについては、研修が終了した後に補講を設けたり質問に答えたりしており、事務局による個別のフォローもある。「研修については、講師から他社の事例も紹介してもらえるのは、すごく参考になりました。例えば、新規事業の立て方などについては発見



神奈川がんばる企業エース表彰式(左奥が千葉社長)

がありました」(道添専務)。

「会社は時代とともに、業態や業容を変化させていかないとはいけません。それだけに、時が経つと経営の軸がぶれる場合もあります」と千葉社長。経営デザインシートに取り組むことによって自社の方向性を定めると、会社の進むべきベクトルが明確になり、経営の軸がブレなくなるという。経営デザインシートは中小企業にとって、自社の事業形態や成長段階に応じて使えるツールだ

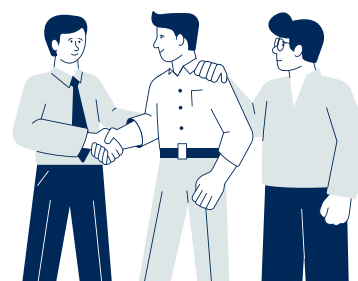
と言える。このツールを使えば、事業の棚卸しや自社の強みや弱みの再確認、進むべき方向性の明確化が図れるのではないだろうか。

商号 かながわ経済新聞合同会社
代表者 千葉龍太
所在地 神奈川県相模原市中央区中央3-12-3 商工会館本館1F
創立 2013年7月
ホームページ <https://kanakei.jp/>





広げよう会員の輪 **新規会員の紹介**



新規会員との意見交換・面談を希望する方は、事務局へご連絡ください。

NEW お客様の抱える課題に寄り添い、 ビジネスの可能性を広げる ITソリューションサービスをご提案

有限会社アットウォーカーは、「IT技術でお客様のビジネス強化に貢献すること」を使命とし、システム開発、WEBコンテンツの企画・制作・運用支援、ITコンサルティングなどを通じて、お客様のニーズに合わせたITソリューションをご提供しています。



「効率的・効果的なIT活用が出来ているかな？」と思われるなら、ぜひご相談ください。

お客様にとってのベストプラクティスを追求し、課題解決や目標達成に向けて効果的なサポートをご提案いたします。

有限会社アットウォーカー
新潟県上越市春日野1-3-10-102
TEL 025-523-8227 URL <https://at-walker.net>



NEW 社内に必要な人材、そろってますか？ できるシニアの豊かな知見を、 御社の変革に活用して下さい。

知見パワーが、第一線で活躍してきた元サラリーマンの豊かな「専門性」と「人間性=知恵」を活用して、御社の経営課題解決を支援します。



まずは具体的な経営課題をお知らせ下さい。その課題解決に役立つシニア人材を選んでご案内します。

雇用する必要はありません。御社には、合意できる条件（例えば成果に応じた報酬支払い）で、知見パワーと業務委託契約を結んで頂きます。

知見パワーは契約完了までしっかりシニア人材を支えます。

知見パワー株式会社
東京都町田市市中町1-4-2
TEL 042-719-7944 URL <https://chickenpower.com/>



NEW 個人会員

高見守 (たかみ・まもる)

得意領域 製造業(特にロボット活用)に関連した「新規事業」「販促」「生産性向上」支援

中小企業庁「令和5年度 中小企業のイノベーション創出を支援する イノベーション・プロデューサー」委託事業

チームイノベーション実践プログラム

～最高のチームと商品をつくる3カ月～ **計8回**

- 第1回 1月13日(土)
- 第2回 1月27日(土)
- 第3回 2月3日(土)
- 第4回 2月17日(土)
- 第5回 2月23日(金・祝)
- 第6回 3月2日(土)
- 第7回 3月9日(土)
- 第8回 3月16日(土)・3月17日(日)

会場 東京たま未来メッセ3階・会議室 ほか八王子駅近隣を予定

講師 有限会社経営コンサルティングアソシエーション 岡村 衛一郎氏

業種や企業の規模を問わず、業績向上をリードし、モチベーションの源となる「一品」づくりを行っている。支援企業の多くは、過去最高の記録を更新。著書に「会社に眠る財産を掘り起こせ」(朝日新聞社)、「一品で会社を変える」『30代でチームのリーダーになったら最初に読む本』(東洋経済新報社)等あり

東京農工大学 × シュタインバイス大学合同研修

～多様性時代のグローバルリーダーシップ実践教育～

事前研修 2/15(木)、16(金)、20(火)、21(水) 9:00～18:00

事前研修は対面で行います。午前中に講義、午後に関連するワークを行い、理解を深めます。

本研修 3/11(月)～22(金)

第1週目をオンラインで、第2週目を対面で実施します。場所は東京農工大学小金井キャンパスにて行います。

事後研修 3/29(金) 13:00～18:00

グループワークでどのように議論を進めたか、チームの成果にどう貢献したかについて振り返り、共有します。

▶プログラム概要

ドイツ・シュタインバイス大学の大学院生とチームを組み、企業から出された課題についてグループワークを行います。グローバルなプロジェクトにおけるチームワークを模擬体験できる機会です。日独ビジネスや異文化間理解のための講義もあります。

【実施方法】 オンライン (Zoom) + 対面

【使用言語】 事前研修・本研修ともに全て英語

【金額】 60万円 (消費税別)

【募集人数】 6名

【応募締切】 2024/1/12(金)

【問い合わせ先】 東京農工大学大学院・生物システム応用科学府 秋澤 淳・水内 郁夫
steinbeis-program@m2.tuat.ac.jp

スマートファクトリーJapan2024

会期 2024年2月20日(火)～22日(木) 10:00～17:00

会場 東京ビックサイト西ホール

入場料 1,000円(入場登録者・招待状持参者は無料)

※招待状が必要な方は TAMA 協会事務局まで、お問合せ下さい

主催 日刊工業新聞社



TAMA協会ゾーンに
13社が出展

〈出展企業：五十音順〉

industria / イノフィス / エキサイター /
コダマコーポレーション / システム技研 /
テクニカ / 日本システム開発 / バイオ
ネット研究所 / 八洋 / バルキー・インフォ
テック / ユニテックス / リガルジョイント
/ 事務局 (首都圏活性化協会 / イチカワ)

TAMA経済NEWS(つなぐWa)では広告協賛いただける企業を募集しています。詳細は事務局(info@tamaweb.or.jp)までお問い合わせください。

【サイズ】①横57[㍉]×縦48[㍉]、②横57[㍉]×縦100[㍉]、③横262[㍉]×縦98[㍉]、④横127[㍉]×縦142[㍉](特別枠)の計4タイプがあります。

発行元・問い合わせ

一般社団法人首都圏産業活性化協会「つなぐWa」は、協会ホームページに掲載し、メールマガジン等で企業・自治体・商工団体・金融機関等へご案内しています。

一般社団法人首都圏産業活性化協会 Email:info@tamaweb.or.jp URL:<https://www.tamaweb.or.jp/>

■八王子事務所

〒192-0083 東京都八王子市旭町9-1八王子スクエアビル11階 TEL:042-631-1140 FAX:042-631-1124

■羽村サテライト(月曜日休館)

〒205-0003 東京都羽村市緑ヶ丘2-11-1羽村市産業福祉センター1階 TEL:042-570-3481 FAX:042-570-3482